

Weekly コラム

平成 27 年 11 月 24 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

TSUTAYA図書館戦争

先月、レンタルソフト大手の「TSUTAYA」を運営するカルチュア・コンビニエンス・クラブに愛知県小牧市の図書館運営を委託するかどうかの住民投票が行われ、委託反対が賛成を上回りました。そもそも、無料で本を貸し出す図書館と、有料で本を販売する書店、両者が本当に手を取り合う道はあるのでしょうか。

図書館と書店の違いには「鮮度」があります。2013年に出版された新刊は約8200点で、年々増加しています。この新書本に対応できるのが書店で、書店は新刊を大量に仕入れ、人々の需要に対応します。そして、ある一定の期間が経つと、売れ残った商品を問屋へ返品し、新刊と入れ替えます。こうして鮮度の高い、新刊を常に並べているのが書店の特徴です。それに対して図書館は書店のように資料を手放すことがありませんので、購入する量が少なく、人気のある新刊は予約でいっぱいという状況が多々あります。しかし、一度購入した本は長期間保存されますので、鮮度の低い、古い本であっても住民は手にすることができます。これら鮮度の違いから、図書館は長く人気のある本を把握することができます。TSUTAYAが図書館の運営に手を挙げる理由は、この情報を入手し、ロングセラーの書籍を同社の蔦屋書店に並べたい

からです。

ただ、TSUTAYA図書館が小牧市民に反対された理由の一つに蔵書の選定問題があります。TSUTAYA図書館の第1号として有名になった武雄市立図書館では、購入した資料に「公認会計士第2次試験2001」のような何年も前の実用書や、「ラーメンマップ埼玉2」など、佐賀県民には必要性が低い本が含まれていました。それに加え、廃棄された蔵書DVDの中に人気のある「ハリーポッター」シリーズなどが含まれており、TSUTAYAの商品と被っているから廃棄されたとの声が上がり、この反対に至りました。

ですが、もちろんTSUTAYAが武雄市へもたらしたものは大きく、開館時間を3時間延ばし、年中無休にしたため、一日の平均利用者数がなんと以前の867人から3.6倍の2529人に増えました。経済効果も20億円だと言われています。また、図書館の中に今まで武雄市に軒もなかったスターバックスコーヒーを作った事で、市民の憩いの場所を作りました。税金により運営されている図書館を、住民に還元できたという点では民営化した意味は大いにあった様です。蔵書の質が下がったという問題は根深いですが、図書館と書店が共存していくことで、共に質の高いものに生まれ変わってほしいものです。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、skc-soudan@skc.ne.in まで空メールをご送信ください。また、FAX 不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。